

令和3年度第2回麒麟のまち創生戦略会議・サミット議事概要

日 時：令和3年11月8日（月）午後3時～5時

場 所：智頭町総合センター 大集会室

出席者：サミット①②、創生戦略会議①のみ

- ①鳥取市長、鳥取市副市長、岩美町長、若桜町長、智頭町長、智頭町副町長、八頭町副町長、香美町長、新温泉町長
- ②鳥取市議会議長、岩美町議会議長、若桜町議会議長、智頭町議会議長、八頭町議会議長、香美町議会議長、新温泉町議会議長

【サミット】

1 開 会 智頭町長あいさつ

2 報 告

新型コロナウイルスワクチン接種の共同実施の状況について・・・資料1

3 意見交換

テーマ 「新型コロナウイルス感染症からの復興と再生」

<岩美町長>

新型コロナウイルスワクチンの共同接種については、鳥取市をはじめ圏域市町に御協力をいただき、岩美町民もそれぞれの市町で接種させていただいた。まさに連携の成果だと思う。岩美町は、岩美病院を中心にしながら医療機関で接種を行った。今後も協力をしていきたい。ワクチン接種も3回目が始まるが、国からは具体的な情報が市町村におりてきていない。ワクチン確保とあわせて早く方針を決めてもらわないと間に合わないと思っている。今週、上京するので、国の方にも話をしたい。

今日のテーマは、「新型コロナウイルス感染症からの復興と再生」とあるが、やっと道筋が見えてきたかなという状況だと思っている。アフターコロナを見据えた上での展開をやっているかといけない。岩美町では松葉ガニ冬の味覚キャンペーンを実施する。疲弊している観光事業者を支援するため、助成制度を設け、より多くの方に来ていただけるようにしている。他にもいろんな業種が疲弊している。町民のみなさん、お一人当たり6000円のクーポン券を発行し、いろんな商品に使えるクーポンと、そのうちの1000円分は飲食限定にしている。もう一つは、事業者の持続化給付ということで、県は9月から事業者の持続化給付金を実施しているが、岩美町は、県がする前から、6月の補正でお願いして取り組んでいる。県からは事前の事業実施は対象外だと言われて、非常に残念な思いをしている。予算については、町議会にも協力をしていただいている。引き続き、コロナ収束を見据えてジャンプアップを考えていきたい。

<岩美町議長>

これからのコロナ後を考えると、麒麟のまちの市町の中で岩美町はいい位置にあると思う。ワクチン接種の共同実施の実績を見てもわかるように、岩美に来てワクチンを打たれた方が多

い。場所的に、兵庫県の新温泉町さんや香美町さんに鳥取県側で一番近いのが岩美町であるので、今後ますますあらゆる分野で交流ができたらと思っている。

<若桜町長>

ワクチン接種に関しては、鳥取市をはじめ各市町にお世話になり感謝申し上げる。ぜひ3回目接種についても同じように対応していただきたい。職域接種の問題がまだ解決されていないが、これについてもぜひ、一緒になって県の方に要請をしていけたらと思う。

やはり、経済対策を早急にやっつけていかないといけない。あわせて、観光客を呼ぶ。若桜町は人口が少ないので、外から来ていただいて、お金を使っただけのような仕組みをつくっていかないといけないということで、様々な事業を実施している。まず買い物商品券については、11月から3か月間ということで1人10,000円配布させていただいている。中小企業応援金についても、県補助金の対象外となる30%以下の減収については、町独自で支援しているということで進めさせていただいている。また、観光対策として、11月20日から、駅前広場をイルミネーションで飾って、そこにお店を出店させていただきながら、多くの人に楽しんでもらいたい、町民のみなさんも来ていただいて、心を癒していただきたいということで、1月10日までやろうということで準備を進めている。また、若桜鉄道も利用が落ちているので、利用促進として1市6町のみなさんにお声がけし、貸し切り無料を3月末まで実施している。八頭町、若桜町でお弁当やお土産を買っていただいて、地域にきていただけるような事業を考えている。麒麟のまち圏域の1市6町でできることは、いろいろあると思う。できることはどんどん取り組んで行く。遠くに出かけるのはコロナで怖いなということもあろうかと思うので、近くの場所で交流事業ができたらと思う。

<若桜町議長>

この麒麟のまちの関係でいろいろな事業を進めていただいている。特にDMO麒麟のまち観光局の事業支援と若桜鉄道の利用促進ということで非常に感謝している。コロナが収束する中での1市6町でのまとまった観光商品ができていければありがたい。1市6町の中でも、鉄道を有するまちがほとんどなので、観光商品をつくり、また各町でいろいろ改善するような形で観光客の方が来ていただければと思う。麒麟のまちの観光分野での活動についても大きく期待をしている。

<智頭町長>

ワクチン接種の3回目については、国や県がどのような基本的な考え方をもって各自自治体にだすのか、そういうようなところを麒麟のまち1市6町で意思表示をしていきたいと思っている。そうでないと、それぞれの自治体の対応が後手に回ってしまう。全国的にも感染者が減ってきて人も金も動き出すという流れがある中で、鳥取県が会食の指針を示すなどしてもらわないと経済対策進んでいくことはできない。これからも、近く大型補正で経済対策をということがあると思うが、飲食業界についてはなかなか難しい状況にあると思う。こういったことを、具体的に解消していくような方策をできたらと思う。

<智頭町議長>

昨年のサミットで、新温泉町の中井議長から宿泊についてのご提案があり、圏域でのスタンプラリーにというお話があったが、智頭町にとって宿泊というのがネックで、非常に弱い部分だった。旧那岐小学校の施設を大改修して宿泊・入浴もできる形で対応しようということで、

そういう意味で非常に中井議長の提案をありがたく思っている。本日も鳥取市の方から、団体でお見えになっている。そういった中での交流は戻ってきつつあると認識している。まずは地元、地域から交流を進めるという事を足掛かりに、太いパイプをさらに大きくしていきたいと思う。

<八頭町副町長>

コロナワクチンの予防接種、新型コロナの予防対策、感染拡大防止において、鳥取市保健所には大変お世話になった。我々にはノウハウがない中、適切に支援いただいた。御礼を申し上げます。

アフターコロナ、ウィズコロナの関係では、八頭町では消費喚起のため、町民1人あたり5000円分、町内のお店の応援券ということで配布をさせていただいている。「We LOVE 山陰キャンペーン」と併用できる形で「おいでやずキャンペーン」を実施し誘客を図っている。

事業者の支援としては、県の緊急応援金にプラスして町も事業継続の奨励金として支給している。あわせて、医療機関や介護事業所、福祉事業者の支援もしている。

アフターコロナ対応として、町内の観光素材の磨き上げに力を入れている。特に、アウトドアやアクティビティと環境教育を組み合わせ、SDGsの視点で、ふるさとの森などを活用しながら、いわゆる教育旅行の造成も手掛けてきている。各市町が、それぞれ自然のいい素材を持っているので、SDGsの視点で環境教育とアクティビティを組み合わせ商品化させていくようなものも1つかなと思う。麒麟のまちの広域的な連携ということが効果的だし、発信力があるのかなと思う。

国の補正については注意深く情報収集していかなくてはいけないと思っているが、米の価格が大分下がっていることにも頭を悩ませている。何とか農家さんを支援する方策を何かできないか検討中である。

<八頭町議長>

コロナ対策ということでは、国一本で取り組まなくてはいけないところだろう。鳥取県の場合は、今日で10日間感染者ゼロということだが、やはり、国の対応も必要だが地域での対応が大事だと考えている。このコロナ禍でも地方創生を頑張っていたが、八頭町にも大江の郷がある。大江の郷は、現在、年間で30万人の来客数があり、50万人を目指しておられるということで、コロナ禍においても成長することができるということを証明している。

国が2、3年前に示した新たな森林管理システム、これに環境贈与税が支給されている。地球温暖化対策の問題、SDGsの問題、みなさんの市町も山との関係があると思うが、山をいかすということが、地域にとって重要であると思っている。力を合わせてこの問題に取り組んでいただきたいと思う。

<香美町長>

新型コロナワクチンの共同接種については、様々な御助力をお願い申し上げた。引き続きご協力をお願いしたい。香美町では、ワクチン接種について担当課の職員と若手職員でプロジェクトチームを立ちあげて取り組んだ。医療体制は脆弱であっても集団接種を中心に接種に取り組んだ結果、県下でもいち早く接種が進み、接種率もずっと上位のままだった。職員が大変よく頑張ってくれたと思っている。3回目接種につきましても、早め早めの準備を進めて、県下41市町村の中でも一番先に済ませられるように協議を進めている。

コロナ地方創生交付金についても、ワクチン接種後であるとかコロナが収束した後を見据えて活用してきた。基幹産業である水産加工業、組合員の支援のあり方も、ワクチン接種やコロナが収束に向けてどう立ち上がっていくか、どう支援をしていくかを中心に進めてきた。一方で、観光の立ち上がりとか、町内飲食移転の支援については、兵庫県でも様々な手当てがあつて、市部の飲食店や観光産業に比べると、私どもの地域は、時短の協力金だとか、県のお店や宿泊業に民宿に対する支援策が様々あり、令和2年度は税収が増えている状況である。どこに支援が必要かということ判断して、手当てすべきはどこかという事を主眼に、令和4年度の予算編成にも向かって頑張つてまいりたい。

<香美町議長>

全国的に見ても、新型コロナウイルスの感染者は劇的に減ってきた。アフターコロナ、ウィズコロナを見据えた中で、しっかりと通常の生活に戻していかないといけない。経済も含めて、その中で、安定的な財源の確保が必要だと思うので、引き続きやっていきたい。そして、県の議長会を通じて国や県にしっかりと伝えていきたい。

コロナからの再生については、観光事業にはさらなる取組が必要だと思う。町単独での新たな取組と県のキャンペーンと連動しながら、いかに効率的に観光客をつかんでいくのか、人の流れをつかんでいくのか、そういう取組が大事だと思う。コロナ禍で一番しわ寄せがきた弱いところを拾い上げていきたいと思うので、議会としてしっかりと取り組んでまいりたい。

<新温泉町長>

ワクチン接種については、香美町さんの接種は早いのにと町民から厳しい御意見をいただいたこともあった。多くの町民が岩美病院を利用された。香美町さんに遅れは取ったが、最終的には県ではトップクラスの接種率になった。

一方で、昨年3月に新温泉町で最も古い旅館が倒産し、5月も中堅の旅館が倒産した。新型コロナウイルスは非常にマイナス影響を及ぼしているというのが実態である。旅館・民宿の利用者に5,000円の助成を行うとともに、プレミアム商品券10,000円で13,000円分利用できる商品券を発行して、地域の経済支援をしている。

新温泉町は鳥取とのつながりがありとあらゆる面で深い。この場をお借りして御礼申し上げる。

<新温泉町議長>

私の親族が里帰り出産する際には、鳥取市内の産院を利用した。ワクチン接種の予約をする際も、コールセンターではすごく丁寧に対応していただいて、岩美病院で接種をさせていただいた。麒麟のまち圏域はいいチームだと褒められた。引き続き麒麟のまちの連携で、町外はもとよりお産で帰ってくるような場合もかわいがっていただければと思う。引き続き、連携を強めて、みんなが勝ち抜けるような対策を、この会議で検討していただきたいと思う。

<鳥取市長>

ワクチンの共同接種については、大変お世話になっている。この場をお借りして改めて感謝を申し上げます。ワクチン接種の共同実施については、圏域の住民さんからも好評のお声をいただいております、本当によかったと思っている。また、第3回目の接種にあたっては、国の動向など、引き続き情報収集を行いながら、圏域で共同して取組ができるように考えている。よろしくお願ひしたい。

鳥取市ではアフターコロナを見据えて取り組んでいこうと、「新型コロナウイルス感染症からの鳥取市復興・再生プラン」として取りまとめて市民のみなさんにお示しをした。個々の取組はこれからというものもあるが、今、先が見えづらい、不安な状況になる中、明るいメッセージを届ける、力を合わせて明るい未来を切り拓いていこうということでプランを作成した。また、プレミアム付きの地域振興券を考えており、できれば今月中に議会に臨時会をお願いして、補正予算を計上して12月から1月に消費喚起できたらと考えている。

経済対策についても、国に先駆けて地方が取り組んでいくことが必要だと考えている。引き続き、圏域で連携して力をあわせて明るいまちを切り拓いていけたらと思っている。

テレワークとかりモートワーク、ワーケーション、こういったことが今非常に注目されているが、こういったことがこの圏域にふさわしい取組になるのではないかと考えている。こういったことにつきましても、連携して進められたらと思う。

<鳥取市議長>

鳥取市議会では、新型コロナウイルスの感染拡大で実施できなくなった議員視察等の経費を、若者への支援ということで、鳥取市出身学生への応援便に活用してもらっている。この応援便では、麒麟のまち圏域の特産品の詰め合わせ送らせていただいている。コロナ禍ではあるが、この麒麟のまち圏域で取り組めることがあったら進めていただきたい。

【麒麟のまち創生戦略会議】

1 開 会 鳥取市長あいさつ

2 議 題

- (1) 麒麟のまち観光局 令和3年度事業の進捗状況及び令和4年度事業計画・予算について資料1
(質疑なし)

- (2) 令和4年度以降の日本遺産事業推進のあり方について資料2

<岩美町長>

令和3年度の予算規模をベースにとご説明があったが、私の記憶では300万円ではなかったように記憶している。市町負担金について詳細を説明してほしい。

<鳥取市文化交流課長>

令和3年度の市町負担金の総額は400万となっている。ここをベースと考えているが、DMO（一般社団法人麒麟のまち観光局）の公益事業負担金の負担割合、鳥取市80%、6町20%に準じて、令和4年度負担金を算出している。これまでの3年間、麒麟のまち推進協議会の事業については、DMO（一般社団法人麒麟のまち観光局）の運営負担金の負担割合に準じて、鳥取市85%、6町15%としてきていたが、今回、鳥取市を80%、6町を20%にすることによって、各町の負担は金額としては変わらないが、結果的に鳥取市の負担割合が少なくなった。割合にすると6町の割合が増えるので、その部分のご負担をお願いすることになる。

(3) 因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏ビジョンの事業の取組状況

・見直しについて

・・・資料3、資料4

<新温泉町長>

県下で人口減少率が高いので、集中的に婚活事業の推進を図ってほしい。

<鳥取市政策企画課長>

麒麟のまち婚活サポートセンターでは、1市6町のみなさんに登録をいただきながら事業実施をしている。少しずつ成果も見えてきているが、成婚という部分に導くには、まだまだ力不足な部分もある。カップルになってから結婚にいたるまでの期間もフォローアップできるような体制を整えていくということも考えながら進めさせていただきたい。

<香美町長>

新規連携事業については、我々の地域も高齢化が進んでいる中で、大変ありがたいことだと思う。町民のみなさん、特に高齢者の方が様々な学習の機会に参加してもらいたい。一方で、交通手段の面では、鳥取まで直通の列車がないという中で、香美町として参加される方々には何らかの支援を検討したい。できるだけ広報に努めて、単独では様々な学習の機会も得られないので、高齢者のみなさんも鳥取まで足を運んでいただいて、香美町内だけではできない生涯学習や麒麟の関係の勉強などしていただける機会を作っていきたい。

<鳥取市生涯学習・スポーツ課>

YouTube など WEB を使った講座もこれから考えていきたいと思う。ぜひともご参加いただきたいし、PR の方もよろしくお願ひしたい。

<若桜町長>

連携事業の一覧表の8ページ、40番の事業で、公共交通機関のキャッシュレス化というのは、外国人観光客や若者の誘客という点で必要なことだと思う。どんどん進めていただきたいが、いつごろを目途にした計画になっているのか。

<鳥取市政策企画課長>

目途については、手元に資料がないため、お調べしてご報告をさせていただきたい。

後日報告内容

現時点での導入の可否や時期については未定だが、早期に実現できるように、昨年度から JR 西日本に対し、山陰本線への「ICOCA」導入に関し県と連携して協議を進めている。山陰本線への導入を実現するために、まずは路線バスやコミュニティバスへの導入についてバス事業者と検討を行っているところである。

(4) 令和3年度多様な広域連携推進事業の取組状況について・・・・・・資料5

(質疑なし)

3 その他 (なし)

4 閉会 智頭町長あいさつ